※令和４年度以降入学生用

学校番号	T2101

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	（併）世界史探究	単位数	４単位	年次	１～４
使用教科書	「世界史探究」（実教出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

世界史探究では人類の誕生から現代社会が形成されるまでの歴史を扱います。毎回各地域や時代ごとの内容をまとめたレポートを配布し、教科書を用いて学習を進めます。そのため、教科書をしっかりと読み、レポートに取り組むことが必要になります。授業では、レポート作成を進めるうえで必要となる基礎的な事項について扱います。成績はレポート、授業、テストの結果を総合的に評価します。

グローバル化が進み、地域や国をこえて人々のつながりが強まっている現代の社会がどのようにして形成されたのかということを意識しながら学習に臨んでください。

２　学習の到達目標

①学習を通して世界史への興味・関心を高め、世界史を学ぶ意義に気づくことができる。

②人類の誕生から現代社会が形成されるまでの基本的な流れを理解することができる。また、学習内容をもとに現代社会のあり方や課題について地域や社会の当事者としての意識をもちながら探究することができる。

③地域同士のかかわりや地理的条件にも着目し、多角的・多面的に現代社会の形成過程を考察することができる。また、日本の歴史とも関連づけながら世界全体の流れを俯瞰することができる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・古代から現代にいたるまでの世界の歴史の流れ、基本的な知識を理解することができる。 ・世界史の枠組みと展開を、地理的条件や日本の歴史とも関連づけながら理解することができる。	・地域同士のかかわりや地理的条件にも着目し、多角的・多面的に現代社会の形成過程を考察し、まとめることができる。 ・世界の歴史を、地理的条件、日本の歴史などの様々な要素と関連付けて、実証的・多角的・多面的・批判的に考察し、自分の考えを適切に表現することができる。	・世界史への興味・関心を高め、世界史を学ぶ意義に気付くことができる。 ・世界史の大まかな流れを理解した上で、現代社会のあり方や課題について地域や社会の当事者としての意識をもちながら探究することができる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期（実施内容は後期も同じ）	諸地域の歴史的特質の形成	古代文明	a：オリエント文明，インダス文明，中華文明などを基に，古代文明の歴史的特質を理解している。 b：最古の文明が大河の流域にうまれることが多い理由を多面的･多角的に考察し，表現している。それぞれの文明で使用された文字が社会でなぜ必要となったのか多面的･多角的に考察し，表現している。 c：農耕・牧畜の開始から国家の成立までの過程で，最も重要と考えられる変化は何か，主体的に追究しようとしている。身分社会がうまれた背景や権力者たちの特徴を考察し，身分や階級が成立したことによる現代にまで続く問題について，主体的に追究しようとしている。	レポート学習 定期考査	レポート学習 定期考査	レポート学習 授業中の取り組み
		東アジアと中央ユーラシア	a：秦・漢と遊牧国家，唐と近隣諸国の動向などを基に東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解している。 b：春秋・戦国時代におこった社会・経済的な変化、唐が東アジアにつくりあげた国際関係について，多面的・多角的に考察し，表現している。 c：秦・前漢・後漢それぞれの外交関係の特徴、中央ユーラシアの諸民族が中国の歴史に与えた影響、唐代の東アジアの国際関係を通じて，中国から周辺諸国に伝わったものを挙げ，またそれらがその後の周辺諸国の文化･制度に与えた影響について考え，主体的に追究しようとしている。	レポート学習 定期考査	レポート学習 定期考査	レポート学習 授業中の取り組み
		南アジアと東南アジア	a：仏教の成立とヒンドゥー教，南アジアと東南アジアの諸国家などを基に，南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解している。 b：・南アジアと東南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互の関わりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，南アジアと東南アジアにおける宗教や文化の特色，東南アジアと周辺諸地域との関係などを多面的･多角的に考察し，表現している。 c：古代インドで仏教が栄えた理由や東南アジアにおける中国文化とインド文化の影響について，主体的に追究しようとしている。	レポート学習 定期考査	レポート学習 定期考査	レポート学習 授業中の取り組み

※令和４年度以降入学生用

		西アジアと地中海周辺	a: 西アジアと地中海周辺の諸国家などを基に,西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。 b: 史料「ベヒストゥーン碑文」とCheckを活用し,アケメネスの支配の特徴について,アッシリアとの違いも踏まえながら,多面的・多角的に考察し,表現している。アテネの民主政とローマの共和政の違いについて多面的・多角的に考察し,表現している。 c: アケメネス朝の支配の特徴を唐代までの中国王朝と比較することで,その共通点を主体的に追究しようとしている。アテネの直接民主政は,現代の民主政と比べてどのような違いがあるか,またその違いを生み出した理由は何か,主体的に追究しようとしている。	レポート学習 定期考査	レポート学習 定期考査	レポート学習 授業中の取り組み
		西アジア・地中海周辺の変動とヨーロッパの形成	a: キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に,西アジアと地中海周辺,ヨーロッパの歴史的特質を理解している。 b: フランク王国とローマ教会の関係について多面的・多角的に考察し,表現している。アラビア半島でなぜイスラームが生まれたのか,多面的・多角的に考察し,表現している。 c: 8世紀にどのような宗教が確立し,それらがそれぞれの土地にどう根ざしたか比較し,主体的に追究しようとしている。	レポート学習 定期考査	レポート学習 定期考査	レポート学習 授業中の取り組み
	諸地域の交流と再編	イスラーム圏の拡大とヨーロッパ社会の変容	a: 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播,ヨーロッパ封建社会とその展開などを基に,海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。 b: 諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因,結果や影響,事象相互の関連,諸地域相互のつながりなどに着目し,主題を設定し,諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き,諸地域へのイスラームの拡大の要因,ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し,表現している。 c: イスラーム世界が世界の歴史にもたらした影響のうち,最も重要と考えられるものは何か,主体的に追究しようとしている。十字軍運動がキリスト教圏とイスラーム圏にどのような影響を与えたか,主体的に追究しようとしている。	レポート学習 定期考査	レポート学習 定期考査	レポート学習 授業中の取り組み

※令和４年度以降入学生用

		中央ユーラシアと諸地域の交流と再編	a：宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に，海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。 b：唐の滅亡後にユーラシア東部でどのような変動がみられたか，多面的・多角的に考察し，表現している。 c：モンゴル帝国のもとでユーラシア大陸の一体化がすすんだ要因として，最も重要と考えることを，東西交流の諸相をふまえながら，主体的に追究しようとしている。	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 授業中の取り組み
		大交易時代	a：アジア海域での交易の興隆，明と日本・朝鮮の動向，スペインとポルトガルの活動などを基に，諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解している。 b：諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，アジア海域での交易の特徴，ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し，表現している。 c：大航海時代によってもたらされた変化のうち，最も重要と考えることについて，自身の生活とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 授業中の取り組み
		アジア諸地域の帝国	a：西アジアや南アジアの諸帝国，清と日本・朝鮮などの動向を基に，アジア諸地域の特質を構造的に理解している。 b：アジア諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，諸帝国の統治の特徴，アジア諸地域の経済と社会や文化の特色，日本の対外関係の特徴などを多面的・多角的に考察し，表現している。 c：イスラーム都市が繁栄した理由について，イスラームの支配下であっても，非ムスリム商人が活動しやすい環境が整備されていたという点に注目し，排他的でない，よりよい社会の実現を視野に，主体的に追究しようとしている。	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 授業中の取り組み

※令和４年度以降入学生用

		近世ヨーロッパの形成と展開	a：宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争，大西洋三角貿易の展開，科学革命と啓蒙思想などを基に，主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。 b：大西洋三角貿易が，西ヨーロッパ・アフリカ・アメリカの３地域にもたらした変化について，奴隷船の実態や扱われた商品，イギリスの産業革命との関係に留意しながら，多面的・多角的に考察し，表現している。 c：ポルトガルとスペイン，さらに，オランダ・フランス・イギリスの盛衰と経済力の関係について，アジア・アフリカ・アメリカなどの非ヨーロッパ世界との交易にも注目しながら，主体的に追究しようとしている。	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 授業中の取り組み
	諸地域の結合と変容	・産業革命と大西洋革命	a：産業革命と環大西洋革命などを基に，国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。 b：産業革命により欧米諸国とそれ以外の諸国・地域の関係がどう変化したか，多面的・多角的に考察し，表現している。大西洋革命の背景となった出来事や，越境した人々の思想や行動を整理し，それらの影響や働きについて，多面的・多角的に考察し，表現している。 c：産業革命によっておこった変化のうち，世界史上の転換点として考えられるものについて，さまざまな技術革新，資本主義と社会主義の関係，国際関係の再編などをふまえながら，主体的に追究しようとしている。アメリカ独立宣言やフランス人権宣言の内容と共通している部分について，大西洋革命が世界史に刻んだ普遍的性格をふまえながら，主体的に追究しようとしている。	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 授業中の取り組み

※令和４年度以降入学生用

		近代ヨーロッパ・アメリカの国民国家	a：自由主義とナショナリズム，南北戦争の展開などを基に，国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。 b：大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，自由主義とナショナリズムの特徴，南北アメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し，表現している。 c：19 世紀後半に最も国家統合に成功したと考える国について，近現代の事例から，国家統合の功罪についても配慮する視点をもちながら，よりよい社会の実現を視野に，主体的に追究しようとしている。	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 授業中の取り組み
		地球をおおう帝国主義と世界諸地域の抵抗	a：第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争，アジア諸国の変革などを基に，世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。 b：列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，世界経済の構造的な変化，列強の帝国主義政策の共通点と相違点，アジア諸国のナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し，表現している。 c：アフリカの現状をふまえてそこに至る歴史的経緯を整理しながら，自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。列強による植民地化が東南アジア諸国にどのような経済構造の変化をもたらしたのか主体的に追究しようとしている。	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 授業中の取り組み

※令和４年度以降入学生用

		第一次世界大戦と諸地域の変容	a:第一次世界大戦とロシア革命，ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成，アメリカ合衆国の台頭，アジア・アフリカの動向とナショナリズムなどを基に，第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 b: 総力戦が社会をどのように変えたのかについて，多面的・多角的に考察し，表現している。国際連盟が平和維持のために十分な力を発揮できなかったのはなぜか，多面的・多角的に考察し，表現している。ドイツとイタリアにおけるファシズムの萌芽が 1920 年代にうまれていることについて，その歴史的意義を多面的・多角的に考察し，表現している。 c:第一次世界大戦がそれまでの戦争とどのような点で異なっているのか，主体的に追究しようとしている。	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 授業中の取り組み
		・第二次世界大戦と戦後の国際秩序	a: 世界恐慌とファシズムの動向，ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺などを基に，国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序，冷戦とアジア諸国の独立の始まりなどを基に，第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 b: 世界恐慌と国際協調体制の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点，ファシズムの特徴，第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し，表現している。 c: 連合国側が第二次世界大戦に勝利できた要因を複数挙げ，その中から最も重要な要因について主体的に追究しようとしている。	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 授業中の取り組み

※令和４年度以降入学生用

	地球世界の課題	冷戦と現代社会	a: 集団安全保障と冷戦の展開，アジア･アフリカ諸国の独立と地域連携の動き，平和共存と多極化の進展，冷戦の終結と地域紛争の頻発などを基に，紛争解決の取組と課題を理解している。 b: 国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，国際連盟と国際連合との共通点と相違点，冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点，紛争と経済や社会の変化との関連性などを多面的･多角的に考察し，表現している。 c: 冷戦期における緊張緩和のきっかけと考えられる事例を複数挙げ，その中から最も重要であると考えられることを，歴史的事実を根拠として主体的に追究しようとしている。	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 授業中の取り組み
		世界経済の展開	a: 先進国の経済成長と南北問題，アメリカ合衆国の覇権の動揺，資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換，アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南問題，経済のグローバル化などを基に，格差是正の取組と課題を理解している。 b: 南北問題の問題点を明らかにしたうえで，SDGs で掲げられる国内･国家間の不平等の是正のための具体的方策について多面的・多角的に考察し表現している。 c:冷戦と南北問題がもっていた問題点をそれぞれ挙げたうえで，どちらが先に解決すべき問題だと考えられるか，歴史的事実を根拠にしながら主体的に追究しようとしている。世界の格差がうまれた原因を歴史的に説明したうえで，それを解消するための手立てを，誰が主体になるべきかに留意しながら，自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 授業中の取り組み

※令和４年度以降入学生用

		科学技術の発達と知識基盤社会	a: 原子力の利用や宇宙探査などの科学技術，医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理，人工知能と労働の在り方の変容，情報通信技術の発達と知識の普及などを基に，知識基盤社会の展開と課題を理解している。 b: 科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連などに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，現代の科学技術や文化の歴史的な特色，第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し，表現している。 c: Society1.0 から 4.0 までの歩みと社会にもたらした影響を歴史的に検証し，Society5.0 に向けての諸課題を自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。科学技術の革新が軍事技術の革新となり，結果として人を傷つけることにつながらないようにするために国際社会はどのように対応すればよいかについて，主体的に追究しようとしている。	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 定期考査	レポート 学習 授業中の取り組み

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度